

外国語科（英語）学習指導案

日 時 2025年2月21日（金）第5校時
 13:40～14:30
 対 象 第1学年5組Aコース 26名
 学校名 日野市立日野第一中学校
 授業者 主任教諭 宮崎 太樹
 会 場 1階食堂

1 単元名

Unit 8 “Getting Ready for the Party” *Here We Go! ENGLISH COURSE 1*

2 単元の目標

登場人物の気持ちを捉えながら、プレゼントであるアルバムの最後のページに掲載する、サプライズ・パーティーの写真について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 現在進行形、look+形容詞の文の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〈技能〉 現在進行形、look+形容詞の文を用いて、登場人物の様子を表現する技能を身に付けている。	登場人物の気持ちを捉えながら、プレゼントであるアルバムの最後のページに掲載する、サプライズ・パーティーの写真について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	登場人物の気持ちを捉えながら、プレゼントであるアルバムの最後のページに掲載する、サプライズ・パーティーの写真について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領解説外国語編の第2章、各教科、第9節 外国語、第2 各言語の目標及び内容等、1 目標、(2) 書くこと

イ 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようになる。

2 内容、[思考力、判断力、表現力等]、(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項、① 言語活動に関する事項、カ 書くこと

(ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

を受けて設定した。

言語材料として、現在進行形、look+形容詞の文を取り扱う。これらの表現により、人物や事物を描写することができるようになる。

題材は、登場人物が友達のためにサプライズ・パーティーを準備して実施する内容を取り扱っている。温かい気持ちで準備をしている登場人物の雰囲気を感じさせたい。

(2) 生徒観

小学校での外国語活動・外国語を合計4年間経験しているため、最初の授業から、英語であいさつをしたり、英語の指示を理解して行動したり、簡単な語句を発音することができたので、全体的に英語を聞いたり話したりすることに対する抵抗感は少ない。その一方、書く活動に対しては抵抗感を示しているため、話す活動から書く活動に繋げ、家庭学習を促進できるように工夫をしている。

実用英語技能検定については12月に調査をしたところ、学年生徒数238人中、5級取得者が33人(14%)、4級取得者が26人(11%)、3級取得者が5人(2%)であり、合計64人(27%)であった。

11月に208人が団体受験をした英検IBAでは、リーディングの平均スコアが270点、リスニングの平均スコアが241点、合計の平均スコアが510.8点であった。また、技能・分野別平均正答率は、語彙・熟語・文法が70%、読解が62%、リスニングが89%であった。その結果、英検級レベル別受験者数分布において、「英検5級」チャレンジレベルが29人(14%)、「英検5級」合格レベルが179人(86%)であった。英語力は確実に身に付いてきているので、このペースを下げることなく、指導を継続していきたい。

また、英検IBA生徒向けアンケートによると、「英語は好きですか」という質問に対して、「とても好き」が8.4%、「好き」が17.2%、「どちらかというところ好き」が30.5%、「どちらかというところ嫌い」が24.6%、「嫌い」が11.8%、「とても嫌い」が7.4%であった。肯定的な回答は56.1%である。「英語は得意ですか」という質問に対して、「とてもそう思う」が5.9%、「そう思う」が16.7%、「どちらかというところ思う」が30.0%、「どちらかというところ思わない」が20.2%、「そう思わない」が14.3%、「全くそう思わない」が12.8%であった。肯定的な回答は52.6%である。肯定的な回答が半数を越えているため、さらに多くなるように努力をしていきたい。

(3) 教材観

Here We Go!の各単元は、左側に本文、右側にリスニング、スピーキング、ライティングの活動が設定されたPartが基本的に3つあり、その後、技能統合的な活動であるGoalの構成になっている。Part 1ではサプライズ・パーティーの事前準備、Part 2ではTinaの家での準備、本時のPart 3ではサプライズ・パーティーの序盤が描かれ、Goalではサプライズ・パーティーの写真を見ながら登場人物達が振り返る設定である。

日本での慣れない生活で疲れているTinaを、元気づけようと登場人物たちが様々な行動をしているので、彼らの気持ちがよくわかる構成となっている。本時の内容を視覚的に理解しやすくなるようにスライドやピクチャーカードを用いる。登場人物の行動について、説明できるように必要な語彙や文構造を定着させる。そのために、音読練習を繰り返し実施する。教師による範読の復唱から、音声に合わせて読む、個人での練習と段階的に暗唱できるまで高める。

5 年間指導計画における位置付け

●題材・場面 ◎言語材料 ◇言語活動

	単元名	題材・言語材料・言語活動
第1学期	Let's Be Friends	●小学校の復習 ◇「聞くこと」
	Unit 1 Here We Go! パフォーマンス (なりきりスピーチ)	●自己紹介 ◎be 動詞、一般動詞、助動詞 can の肯定文と否定文 ◇「書くこと」
	Unit 2 Club Activities パフォーマンス (チャット)	●部活動体験 ◎be 動詞、一般動詞、助動詞 can の疑問文 ◇「話すこと [やり取り]」
	Unit 3 Enjoy the Summer パフォーマンス (チャット)	●夏祭り ◎what の疑問文、不定詞名詞的用法、動名詞 ◇「話すこと」
第2学期	Unit 4 Our New Friend パフォーマンス (なりきりスピーチ)	●先生紹介、友人紹介 ◎3人称単数の be 動詞、who の疑問文 ◇「話すこと [発表]」
	自己紹介スピーチ パフォーマンス (スピーチ)	●自己紹介 ◇「話すこと [発表]」
	Unit 5 This Is Our School パフォーマンス (チャット)	●学校紹介 ◎where の疑問文、命令文 when の疑問文 ◇「話すこと [発表]」
	Unit 6 Cheer Up, Tina パフォーマンス (ストーリー・リテリング)	●登場人物の家族の会話 ◎3人称単数一般動詞 ◇「書くこと」
	他者紹介スピーチ パフォーマンス (スピーチ)	●他者紹介 ◇「話すこと [発表]」
第3学期	Unit 7 New Year Holidays in Japan パフォーマンス (チャット)	●お正月 ◎過去形 ◇「書くこと」
	Unit 8 Getting Ready for the Party パフォーマンス (ストーリー・リテリング)	●サプライズ・パーティー ◎現在進行形、look+形容詞 ◇「書くこと」

6 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）

	目標	学習内容・学習活動	評価規準		
			ア	イ	ウ
第1時	・教科書本文の内容を理解する。 ・内容にふさわしく音読する。	○教科書本文の内容理解 ○教科書本文の音読	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分配慮する。		
第2時	・教科書の登場人物の写真の説明を聞き、文を書く。 ・教科書の内容を自分の言葉で語る。	○リスニングからライティングへの統合的な活動 ○ストーリー・リテリング			
第3時	・教科書本文の内容を理解する。 ・内容にふさわしく音読する。	○教科書本文の内容理解 ○教科書本文の音読			
第4時	・教科書の登場人物の行動を聞き取り、文を書く。 ・教科書の内容を自分の言葉で語る。	○リスニングからライティングへの統合的な活動 ○ストーリー・リテリング			
第5時 (本時)	・教科書本文の内容を理解する。 ・内容にふさわしく音読する。	○教科書本文の内容理解 ○教科書本文の音読			
第6時	・教科書の登場人物の感想を聞き取り、文を書く。 ・教科書の内容を自分の言葉で語る。	○リスニングからライティングへの統合的な活動 ○ストーリー・リテリング			
第7時	・サプライズ・パーティーの様子を聞き取る ・サプライズ・パーティーの写真について文を作る	○リスニング活動 ○ライティング活動			
第8時	・単元での学習態度を振り返る ・単元で学んだ表現を振り返る	○フォームに入力する ○ワークシートの問題を解く			
後日	ペーパーテスト、パフォーマンステスト		○	○	○

8 指導に当たって

ア 授業形態の工夫

2学級を3分割した小人数指導を行う。ペアで活動する時間、個人で練習する時間、周りの生徒と協力をして活動する時間などを設定する。小人数指導の利点を生かし、様々な活動をテンポよく行うことで、集中力が途切れないようにする。

イ 指導方法の工夫

英語で指示をしたり英語を通して題材を理解させたりすることで生徒が英語を使おうとする意欲を高める。聞いて理解することから、教科書本文の音読練習を経て、自分の言葉で話せるように段階的に高める。

ウ 教材の工夫

言語の使用場面をイメージしやすくするためピクチャーカードを用いる。また、フラッシュカードは音声と文字を瞬時に結び付けられるようにするとともに、集中して発音練習ができるようにするために用いる。

9 本時（全8時間中の第5時間目）

(1) 本時の目標

教科書の登場人物の気持ちを理解しながら、look+形容詞を用いた本文を音読することができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 5分	○帯活動 ・英語の歌を歌う。	・歌詞を言って歌いやすくする。	目標の達成に向けて指導を行い、形成的評価は行うが、記録に残す評価は行わない。
展開 44分	○教科書本文の内容理解と音読練習 ・教師の口頭導入を聞く。 ・本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">look+形容詞を使って、登場人物になりきって音読できるようになる</div> ・教科書本文の音声を聞き取る。 ・教師による本文内容の説明を聞く。 ・フラッシュカードを見ながら、新出語句の発音練習をする。 ・教科書本文を音読する。 ① Chorus Reading ② Overlapping ③ Buzz Reading ④ Read and look up ⑤ Shadowing ⑥ Response Recitation ・教科書本文の内容を振り返り、やり取りを2回行う	・新出文構造と教科書本文を、スライドを用いて口頭導入する。 ・一方的に説明しないように心掛ける。 ・フラッシュさせて、瞬時に単語が認識できるようにする。 ・家庭で音読練習ができるようになるまで、繰り返し音読させる。 ・机間指導を行い、1回目のやり取りの後の中間指導に活用する。	
まとめ 1分	○本時で学んだことの振り返り	・次時に向けて課題を整理し、意欲を高める。	

(3) 授業観察の視点

- ・生徒は、本時の目標を意識しながら、言語活動を行っていたか。